



2025



取手市立小・中学校保護者／地域向け コミュニティ・スクール通信 第2号

作成発行：取手市教育委員会生涯学習課

第1回 一括研修会を開催しました！

去る5月15日（木）、藤代庁舎大会議室において、令和7年度第1回コミュニティ・スクール一括研修会を開催いたしました。

講師として今年度で4年目となる、文部科学省総合教育政策局CSマイスターの安齋宏之（あんざい ひろゆき）先生をお迎えして、今年度の新規委員さんを中心に研修を行いました。

第1回の研修テーマは、「コミュニティ・スクールでつくる子供と地域の未来～地域みんなのウェルビーイングの向上を目指して～」でした。

「ウェルビーイング（Well-being）」とは直訳すると「良好な状態」となります。一般的には身体的・精神的・社会的に満たされている状態を指します。

はじめに「取手市の『街の幸福度ランキング』は、茨城県内で何位でしょうか？」（「いい部屋ネット」の調査結果から）や、「取手市の皆さんは、何に幸福を感じているのでしょうか？」といった、私たちにとって身近で、かつ興味深い話題提示からスタートした研修会。先生の校長、そして現在のCS（コミュニティ・スクール）マイスターとしての様々なご経験から、CSを取り入れる意義や効果などについてご講義いただきました。研修内容を、以下項目だけ示します。

研修内容

- 1 コミュニティ・スクールとは？
- 2 コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進
- 3 CSを生かした学校経営の実際
- 4 学校運営協議会委員は、何をするのか
※ 質疑応答



こうした、たくさんの意義深い内容が含まれた研修は、新しくCS委員となられた方々にとって、コミュニティ・スクールを実践展開することの意義・価値が十分理解された内容でありました。今年度も、この一括研修会は計4回の実施を予定しています。また、6月25日には、全てのCS委員を対象とした「全体研修会」を開催し、特に「地域学校協働活動」に関する研修を行う予定です。安齋先生、そして委員の皆様、これからもよろしくお願ひいたします。

地域連携のあり方：中学校の試行－藤代中の計画－

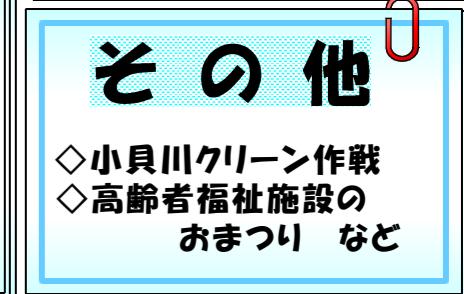
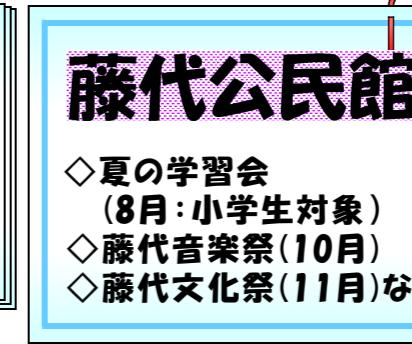
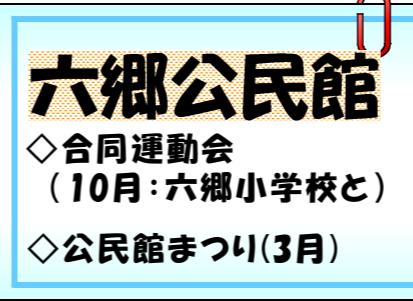
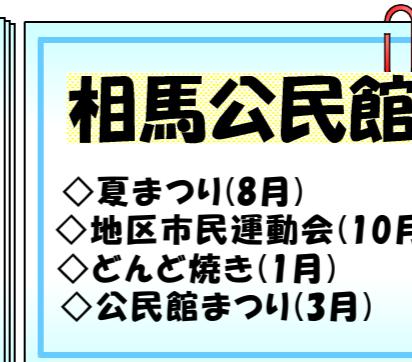
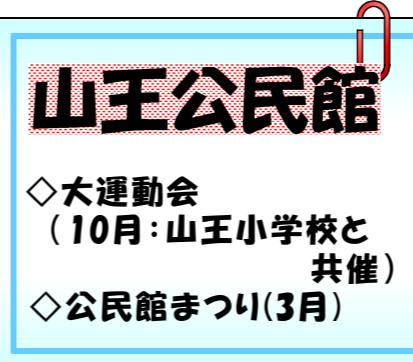
コミュニティ・スクールを実施する最大の目的は、「学校・家庭・地域が一体となってよりよい教育、児童生徒の育成に取り組むこと」であるとともに、「学校を中心に地域の方々が協力し合うことで、地域全体の活性化、人と人とのつながりも深まること」でもあります。

取手市では昨年度、コミュニティ・スクール2年目以降の小中学校を中心に、保護者・地域の住民の方々に、学校教育／各学年の授業や行事、環境整備や登下校の安全確保など様々な面で協力していただきました。こうした取組を「**学校支援**」と位置付け、地域と学校の連携活動、【**地域学校協働活動**】の一つととらえています。

こうした「**学校支援**」タイプの【**地域学校協働活動**】のように、学校に地域の方々をお招きし、教育活動の支援・協力をいただくことは別に、学校の生徒たちが地域に出向き、地域の様々な行事やイベントに協力することを通して、「地域全体の活性化」「人とのつながり」を深めていくことはできないか、そうした視点で地域と学校との連携を深める取組を、「**地域貢献**」タイプと位置付けます。この「**地域貢献**」タイプは、中学生をその主体として取り組んでいくものととらえています。ここでは、校長先生はじめ学校全体でこの「**地域貢献**」タイプの協働活動に取り組もうとする**藤代中学校**の今年度の計画について、紹介していきます。

中学生が協力できる地域の行事・イベントとは

藤代中学校ではまず、中学校区内の公民館の行事やイベントの中で、中学生が運営のお手伝いをさせていただけるものを、昨年度から公民館長さんに依頼して情報提供を求めました。また、CSコーディネーターが学区内の各公民館と連絡を取り、さらに情報を収集していました。こうして現在、「協力できること」として以下のようない行事等を予定しています。



※天候不良、部活動の予定などにより生徒が参加できない場合もあります。

各協力先との詳細な打ち合わせ、生徒の参加方法、学習・授業の一環としての学習計画など、まだまだ準備することがありますが、こうした藤代中学校の取組は、地域の活性化・人と人とのつながりを促進する一つの試みであると考えます。これからの展開が楽しみです（5/24 ペタンク大会に協力しました!）。